

巻頭言

創造性と人間性豊かな医師の育成を目指して

医学部長

内山 和久



大阪医科薬科大学医師会の先生方におかれましては、平素より多大な支援、ご指導を賜り、心より御礼申し上げます。2021年4月、医療系総合大学として医学部、薬学部、看護学部を備えた大阪医科薬科大学が誕生してから、はや一年近く経過しようとしております。

学生教育にあたっては、学長の指導下に、教育センターや学生生活支援センターとともに、学是の「至誠仁術」に従って、将来社会に貢献できる創造性と人間性豊かな国際的視野を持った医療人を育成すべく努力しております。とくに医療行為は神聖な行為であることから、患者さんに対して真摯な態度で望むことを医学教育の中心に据え、知識への渴望と技術への向上心を生涯求め続ける学生を全力で応援したいと思っております。基本的には十分な「対話」の機会を設け、何事も否定から入らず、まずは学生の意見を「傾聴」し、各個人の長所を伸ばしていきたいと思っております。

昨今のコロナ禍対策によって、社会全体のIT化が急速な発展を遂げ、本学の教育においてもオンラインやオンデマンド授業の実施に予期せぬ進歩が認められました。これを契機にコロナ禍がたとえ収束しても全てを対面講義に戻すことは考えておりません。むしろ学生間ではWeb授業で習熟度が高くなったとの意見も多く、今後は知識や情報の伝達は遠隔ツールを多用したいと思っております。すでに特別演習講義ではオンデマンド形式の配信によって動画を繰り返して見る事が出来る利点を活用しております。今年、文部科学省から、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度に基付いたモデルコアカリキュラムの設定が義務付けられ、情報リテラシー科目を開講することになりましたが、まさに遠隔授業に最適と考えています。一方、対面授業ではディベート、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどに主軸を置きたいと思っております。

学生の効率的学習を目的とした適切な単位数を設定することが必要です。大学設置基準上定められた単位数(医学部は188単位以上)を有効的に活用することで、現行の240単位からの負担軽減を図り、その分を自学自習時間に当てたいと考えています。昨年は3、4年生の講義を8単位減

少しでしたが、今後、53単位を占める教養科目は減少させる必要があります。一方で3学部共通科目である多職種連携講義の新たな開設や、今年から開講したInstructive Englishのように1~6年に自由選択性の科目を設定するなどflexibleな対応をとる予定です。

医学部学生である以上、国家試験の合格は最終目標であり、統合された医学知識を身に付け、実践的診断能力を磨くことは最低条件です。4年次終了時に施行される共用試験(CBT)は令和5年からプレ国家試験となり、これに合格して初めてStudent Doctorとして病棟実習が可能となります。本学で「コア・クリニカル・クラークシップ」による臨床基本実技を学習後、学外の病院や医療施設で22週間におよぶ「アドバンスト・クリニカル・クラークシップ」が実施されますが、この小グループ実習期間のアクティブ・ラーニングにより、医学知識や診断能力は飛躍的に進歩します。国家試験対策にも本学に伝統的な「学生グループによる自主的な自学自習」は必須です。とくに昨年はコロナ禍によりこの「グループ学習」が実施できず、ある程度予想していたこととはいえ合格率も低下しました。さらに本学の学生は国試への準備が遅いことが問題となっています。5年生は1年間学力試験がなく学生の学力差が拡大する時期であるため、夏休み明けに「中間試験」を実施することにしました。

卒業後は、医師としてのプロフェッショナリズムを発揮し、患者さん中心の医療を展開しなくてはなりません。よく企業では法令遵守や企業倫理の順守という意味でコンプライアンスという言葉を目にしますが、医師にはさらにインテグリティ、つまり誠実性や高潔性など医師としての倫理意識が求められます。さらに、医師は専門領域において常に最先端の知識・技能を保つため、学生には生涯学習を続ける心構えを植え付けたいと思います。

